

有限会社スガワラ印刷

TEL.03-3800-1055 FAX.03-3800-1060
URL <https://www.copimemo.jp/>



菅原 正博
代表取締役

代表者：代表取締役 菅原 正博
所在地：〒116-0012 荒川区東尾久3-11-24
資本金：300万円
従業員：4人
創業年：昭和36年
業種：印刷業
事業内容：事務用帳票類の製造・販売
(オフセット印刷、複写式ふせん)

デジタル化の今こそ有能な人材ネットワーク

昭和47年に先代が印刷会社として法人化し、その時より事務用帳票類の印刷を得意としている。印刷業は設備先行業種と言われ、中小企業と大企業とでは資本や設備力等に大きな差があり、同じ土俵では競争を勝ち抜くことができない。かつての東京の印刷会社は分業化が進み、顧客にワンストップサービスを提供できるネットワークが構築されていた。当社もそのネットワークに参加し、経済成長による市場の発展とともに業容を拡大してきたが、デジタル化の進展やインターネットの普及で、10年前頃一旦売り上げが落ち込んだ。

しかし、2代目の正博社長が、大企業などが今さら参入しても無駄、利益が出ないと考える当社の強みである小ロット多品種な印刷をふれずに追いかけた結果、競合会社が減少していく中、次第に受注が伸びてきていた。その矢先、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で人流が減少し、ペーパーレス化の推進やWEB広告の普及が加速したが、生き残りをかけて利益確保を探り、経営努力を続けている。

当社の強みは、「ネットワーク＝人脈＝人材」である。先代が築いた人脈、正博社長が大学で培った画像工学分野の人脈、卒業後に他社修行で構築した人脈に今でも助けられている。そして、何よりも1社1社の顧客との信頼関係が最大のネットワークである。顧客ニーズに応え、満足いただける商品を提供し続けることは決して容易ではないが、顧客を大切に、仲間とともに切磋琢磨している。

通販印刷サービスに無いニッチな商品対応

印刷と、その周辺領域で、さまざまな技術・ノウハウを培ってきており、それが財産だと自負している。例えば、ナンバリング印刷した複写伝票への荷札加工や、支給された印刷物に可変デジタルデータを印字して製本加工までを行うなど、同業の顧客から受ける仕事も多くなってきた。

現在、フードロス問題にヒントを得、SDGsにも対応したユニークな印刷物受発注の仕組みを構築中。随時、顧客に提案していく。

主な保有設備

- ・オフセット印刷機 (四六四切機×2台)
- ・断裁機 1台
- ・折り機 1台



当社のニッチな印刷メニューは右側QRコードよりHPをご覧ください。

複写ふせん紙や名物最中の個包装紙も

当社では、特許技術を活かし「コピーメモ®」を商品化している。「コピーメモ®」は、いわゆる複写できるポストイットで、現在アマゾンで「メモツ多」という商品名で販売し、年間を通しコンスタントに売れている。また、ノベルティとしても広く採用され、荒川区の産業振興シンボルキャラクター「わざ丸」をあしらったものや企業独自仕様の複写可能な特注品のポストイットとしても利用されている。



「わざ丸」の複写ふせん紙



人気画家の墨絵を印刷した「ライダーもなか」の個包装紙

趣を異にする当社の商品として、日本モータースポーツファンの聖地と呼ばれる、鈴鹿サーキット近くにある和菓子屋「とらや勝月」さんの製造販売する「ライダーもなか」の個包装袋がある。この地の名物である「ライダーもなか」の魅力を高めているのが、疾走するバイクを墨絵で描いた個包装袋。この絵は、モータースポーツを墨絵で描くことで有名なイラストレーター垂井ひろし氏の作品で、彼とは学生時代の音楽仲間という縁もあり、当社は長年「ライダーもなか」の個包装袋を印刷し納入している。

また、別の事例では、某不動産会社の依頼で明治以前の荒川区の古地図を当社のデジタル技術により複製し、アーカイブ機能により半永久的に検索、閲覧、および出力を可能にした。この事業により、貴重な文化資産の継承を実現し多方面への活用を広げたことで、小さいながらも良い仕事をする会社と評価を受けた。このように、紙からデジタル分野に事業範囲を広げることで、受注範囲を拡大している。

主な認証・実績等

- ・特許：「付箋紙」(特許5697190号)
- ・商標：「コピーメモ」(登録5340918号)
- ・中小企業基盤整備機構「販路開拓支援事業」採択
- ・東京都中小企業振興公社「中小企業ニューマーケット開拓支援事業」採択
- ・第3回TASKものづくり大賞奨励賞受賞
- ・テレビ、新聞、雑誌等メディアにて紹介